

大石 征裕 (おおいし・まさひろ) 先生
 山口 哲一 (やまぐち・のりかず) 先生
 金井 文幸 (かない・ふみゆき) 先生

社団法人音楽制作者連盟 理事長
 同 理事
 同 事務局次長

大石先生

1960年、大阪生まれ。

1981年、「デンジャー・クルー」設立。

1983年、ムーンレコード、ユイ音楽出版との傘下で44マグナムをデビューさせる。

2007年、名称を「マーヴェリック・ディー・シー・グループ」と変更。同グループC.E.O.であると同時に、制作プロデューサーでもある。これまでラルク アン シエルをはじめ多くのロックバンドをマネージメント。1985年～、インディーズレーベル「デンジャー・クルー・レコーズ」を運営。海外での展開を拡充し、EU圏におけるリリース、所属アーティストのツアーをも成功させる。

2007年6月、社団法人音楽制作者連盟 理事長に就任。



山口先生

株式会社バグ・コーポレーション代表取締役

1964年、東京生まれ。

1980年3月、練馬区立上石神井中学校卒業。

1983年3月、国際基督教大学(ICU)高校卒業。

1987年、早稲田大学文学部中退。

1989年、(株)バグ・コーポレーション設立。代表取締役就任 現。

2005年7月、社団法人音楽制作者連盟 理事就任 現。

金井先生

社団法人音楽制作者連盟 事務局次長。

貸レコード使用料交渉はじめ、違法コピー問題、違法音楽配信対策担当。

また、「LIVE NEXUS」や「SYNC MUSIC JAPAN」運営プロジェクト等の事業開発を兼務。

社団法人音楽制作者連盟 <http://www.fmp.or.jp/>

〈講義概要〉

本講座の寄附提供団体である社団法人音楽制作者連盟の理事長大石征裕氏、理事山口哲一氏、事務局次長金井文幸氏が、日本のエンタテインメント産業の海外進出について、音楽プロデューサーの視点から講義を行った。

講義は、ライブ映像や写真などを上映しながら、3名の対談形式で進められた。海外においては、日本のコンテンツやアーティストが一定の評価を得ており、産業の活性化のチャンスが到来していることを、具体的に説明。それに対して、国家としての戦略が必要になっていることを指摘した。

また、音楽制作者連盟の活動内容や、ネット配信や違法ダウンロードの問題にも触れ、著作権法の改正についても詳しく解説。実演家の権利を守り、新しい実演家を育成していくために、法整備とモラルを広めるための活動が必要だという考え方も示した。

さらに、音楽産業はまだ発展途上の産業であることを伝え、学生に音楽業界を志してほしいと強いメッセージを送った。

〈受講生の感想〉

私は今まで日本の文化や技術（とくに音楽の）は日本国内でだから人気があるものであって、世界にはまだまだ通用しないと思っていたし、日本のミュージシャンが世界であんなに活躍していると知らなかったのが、今日お話を聞いて、新しい世界を知れたような感じがしました。

立命館大学・産業社会学部・1回生

「世界規模で市場を見ていく」という概念が自分にはなくて、現場で活躍されている方々の広い視野のお話が聞けて、非常に感銘を受けた。音楽産業というか、文化の問題は1つの行動や法律や新しい取り組みによって、長い目で見てどっちの方にも転がるのだということを感じた。素晴らしいアーティストや音楽は無限大なのに、生かすも殺すも音楽業界に関わる側がどうにでもできる！と思うと、自分も関わって多様化する音楽産業に挑戦したい気持ちが高まりました。 京都産業大学・経営学部・3回生

今日の講義は本当にためになりました。日本のカルチャーが海外にこんなに注目されている時代、日本のトップがしっかりすべきだという話を聞きました。韓国は自国の文化を海外へ進出させることに力を入れており、日本の韓流ブームなどとても分かりやすい例でした。

立命館大学・産業社会学部・1回生

違法ダウンロードの問題はすごく深刻だと思います。今の大学生の年代くらいまでは子どもの頃にはそういった技術がなかったため、音楽は無償ではない事を知っていると思うのですが、小さい頃からそういう技術に親しんできた下の世代はなかなか体得できないのではないかと思います。そういった世代に対して家庭や学校など多方面からモラル教育をしてもらう働きかけが必要ではないかと感じました。

立命館大学・産業社会学部・4回生

著作権が守られなければ新しいアーティストが生まれなくなる、音楽文化が衰退することを私も危惧していたが、ミュージックガーディアンズのような試みがなされていて、日本は海外と比べれば対策がなされていることをはじめて知った。

立命館大学・経済学部・4回生

日本の予算のかけ方と海外の国の予算のかけ方が全く違うという事実は驚きました。特に日本のアーティストが海外進出する時は本当にひっそりとしている（あまり盛り上がらない）ので淋しく感じます。授業に出ていて毎回思うことですが、音楽に著作権等の問題が必ずついてきますが、それを嫌がらずに前向きに吸収していきたいです。

京都女子大学 現代社会学部 2回生

